

2017年度 立命館大学国際言語文化研究所 連続講座

越境する民——接触／排除

10月6日・13日・20日・27日 (毎週金曜日) 17:00～19:00 (開場: 16:30)

立命館大学 衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム

第1回 10月6日

パイレーツ・モダニティ——海賊、奴隷、資本主義

報告者 小笠原 博毅 (神戸大学)
コメンテータ 久野 量一 (東京外国語大学)
米山 裕 (立命館大学)
司 会 西 成彦 (立命館大学)

第2回 10月13日

アメリカ合衆国の国境の現在
——難民、強制送還、移民制度と「排出」メカニズム

報告者 飯尾 真貴子 (一橋大学)
佐原 彩子 (大月短期大学)
司 会 米山 裕 (立命館大学)

第3回 10月20日

コンタクトゾーンとしての上海:
文学・メディアから浮かび上がる対立の諸相

報告者 大橋 毅彦 (関西学院大学)
木田 隆文 (奈良大学)
堀井 弘一郎 (日本大学)
コメンテータ 西 成彦 (立命館大学)
司 会 内藤 由直 (立命館大学)

第4回 10月27日

チャイニーズ・ドリームの光と影
——中国におけるアフリカ系コミュニティの形成と交易

報告者 ウスビ・サコ (京都精華大学)
コメンテータ 佐久間 香子 (立命館大学)
南川 文里 (立命館大学)
報告者・司会 小川 さやか (立命館大学)



主催: 立命館大学国際言語文化研究所

お問合せ先

立命館大学国際言語文化研究所 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL: 075-465-8164 E-mail: genbun@st.ritsume.ac.jp URL: http://www.ritsume.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/lcs_index.htm

越境する民——接触／排除

企画趣旨

昨年度の連続講座は「越境する民——変動する世界」だったが、そのあとに私たちが見た「変動する世界」は、極右政党が躍進し、イギリスがEUから離脱し、トランプが大統領へ選出される世界であり、これらの現象はすべて移民・難民政策に反対する人びとに支えられた。トランプは「アメリカ・ファースト」のスローガンをくり返しているが、このスローガンはある意味で国民国家の原則を述べており、この原則に忠実であることを根拠にその政治は支持者から正当化されている。つまり、越境がいわば常態化するグローバル化の時代になって、国民国家の原則が有する排他性がいまや牙をむき出しにしているといえる。もちろん、国民国家の原則が貫徹していく過程でジェノサイドはくり返された。そして、近代的な資本主義と帝国主義の歴史的展開は人間の越境と接触を必然的に伴い、貫徹されたように見えた国民国家の原則をつねに反故にしてきた。そのため、歴史的に注目されてこなかった規模の小さい「ジェノサイド」は無数に存在してきた。排外的ポピュリズムが政治世界を跋扈しつつある現在、近代においてくり返されてきた接触と排除の問題を歴史的に再検討することは急務であるといえよう。今回の連続講座はこの課題に取り組むことにする。

第1回 10月6日◎

パイレーツ・モダニティ——海賊、奴隷、資本主義

17世紀から18世紀にかけての大西洋上における海賊と奴隷の関係は、時には敵対し、そして時には同志の関係という複雑なものであった。西欧が植民地主義のもとに近代的な国民経済のシステムを整備するにつれ、一方は取り締まられ、他方は使い捨てにされ、世界資本の蓄積のための人柱とされる。しかし、同時に海賊と奴隷の「移動」は、帝国主義や国民国家のもとでは想像しがたいコスモポリタニズムを生み出すことにもなった。この第1回では、このもう一つの近代＝「パイレーツ・モダニティ」の可能性を考察したい。

第2回 10月13日◎

アメリカ合衆国の国境の現在 ——難民、強制送還、移民制度と「排出」メカニズム

9/11以降にアメリカ社会全体が軍事的に動員されるなかで、「危険」要素と見なされる外国人への制限は、留学生、技術者も含め厳しくなってきた。しかし、それでも現状に不満なアメリカ市民が多数存在し、彼らの支持を狙ったのがトランプの「壁」発言であった。第2回では、特に9/11以降の国内安全保障に関わる「難民」と「強制送還」に焦点を当て、現在のアメリカ合衆国が入国者をどのように選別／排除するのか、排除の対象と判断した人々をどのように扱うのかを考察することとした。

第3回 10月20日◎

コンタクトゾーンとしての上海： 文学・メディアから浮かび上がる対立の諸相

南京条約により開港した上海は、欧米列強や日本の租界が設けられ、様々な人種・民族が混淆する都市となった。権力や集団が入り乱れる場において、人々は他者と出会い、複雑な対立が渦巻く状況の中で暮らしていた。そうした接触やコンフリクト、あるいは融和や協調の諸相は、言語メディアによって記録され、今に伝えられている。連続講座第3回では、上海租界で作られた文芸や新聞に現れた言葉を検証することで、そこで暮らしていた人々の姿を浮き彫りにしていきたい。

第4回 10月27日◎

チャイニーズ・ドリームの光と影 ——中国におけるアフリカ系コミュニティの形成と交易

今世紀に入ってアフリカ諸国出身者の移動が急速に活発化し、中国各地ではアフリカ系移住者・交易人のコミュニティ形成が進んでいるが、中国人社会との衝突も少なくない。他方、中国の草の根の製造業者や商人、イスラーム教徒との間では、独自の交易システムや連携も結ばれつつある。第4回では、西アフリカ諸国と東アフリカ諸国出身の交易人・移住者が中国で形成するコミュニティと交易システムに着目し、中国とアフリカ諸国間の草の根の人びとの移動を通じた連携構築と対立の諸相を明らかにしたい。

アクセス

立命館大学 衣笠キャンパス
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

- JR・近鉄 京都駅より 市バス50・205
- JR 円町駅より 市バス15・204・205
- 阪急電車 西院駅より 市バス205
- 阪急電車 大宮駅より 市バス55
- 地下鉄 西大路御池駅より 市バス205
- 京阪電車 三条駅より 市バス15・59

- 市バス15・50・55・59にて「立命館大学前」下車／徒歩5分
- 市バス204・205にて「衣笠校前」下車／徒歩10分 東門



お問合せ先

立命館大学国際言語文化研究所

TEL: 075-465-8164 E-mail: genbun@st.ritsumei.ac.jp
URL: http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/lcs_index.htm